

英米文化学会第 44 回大会
日時：2026 年 9 月 5 日(土)
会場：日本大学（通信教育部 1 号館）

近世英国の書物の文化と読者—合綴本は何を語るか

高野 美千代（山梨県立大学）

本研究発表では、近世英国における個人の読書行為と蔵書形成の実態を、一冊の「合綴本」を例に、その分析によって考究する。合綴本とは、複数の書物を個人が主体的かつ意識的に選択して一冊に製本させた、いわば所有者オリジナルのアンソロジーである。これは特定の時代の書物受容および個人の知的活動の実践を理解するための重要なカギとみなすことができる。研究の対象とする合綴本は主に 17 世紀後半に出版された 23 種の異なる印刷物によって構成されている。蔵書票やサインなど所有者に直接つながる情報が欠落しているこの本に、（1）綴じこまれた個別の印刷物の評価・検討、（2）書物史における合綴本自体が持つ意味の考察、（3）読者による読書行為・蔵書形成の実態解明、という 3 点からアプローチし、この合綴本を実際に制作し所有した近世英国個人読者の人物像を明らかにする。

~~~~~

### I. 合綴本とは

- 特徴：読者（所有者）の判断で複数の印刷物を一冊の本に編成したもの。⇒ 保存・蒐集・装飾・整理の実践が読み取れる。
- 問題点：のちの時代における製本の解体や図書館での個別カタログ化により、合綴本としての全体像が把握しづらい。

### II. 今回研究対象とする合綴本サンプルの主な構成

- **全 23 点**の印刷物による合綴  
〔参考〕
- 前半：多言語詩集・大学関係資料
- 中央：楽譜
- 後半：王政復古期の詩
- 巻末：17 世紀中葉の政治・儀礼関係資料

### III. 分析

#### A. 個別印刷物の評価：

- 刊年の幅（1639–1704）
- 多言語詩集の特徴
- 意図的な組み込み（1639 年の王党派文書）

#### B. 書物史的考察：

- 合綴の目的
- 装丁（ケンブリッジ・パネルバインディング）
- 合綴時期の推定（18 世紀前半）

#### C. 読書行為・蔵書形成の復元：

- 王党派の傾向
- ジェームズ II 世への距離感
- 知的関心（大学教育・詩・音楽・王党派史）

### IV. 推定される読者（所有者）像・まとめ

- 多言語詩集は非売品で大学役員・教員・関係機関への配布物。これを入手可能な人物。⇒1700 年前後にオックスフォード大学で活動した大学関係者（フェロー等か）。
- 大型書物を保管できる個人ライブラリを持つ保守派（トーリー）の学者・ジェントルマン・コレクター。
- 合綴本という一次資料を通じて、近世英国の読書文化・書物文化の一端を理解することが可能。
- このサンプルには読者（所有者）個人につながるような情報（サイン、日付、蔵書票等）は一切ない。しかし書物の中に直接的な痕跡が残らない場合でも、合綴する文書の選択・配置という「編集行為」そのものが読者像を知る手がかりとなる。

以上